



動画トランスクリプト/字幕

アクセンチュア 福島県会津若松市スマートシティプロジェクト紹介

震災に見舞われた町  
待ちも人の暮らしも破壊された  
そして多くの企業が撤退していった

しかし、アクセンチュアジャパンは、あえて福島に参入し、一大スマートシティプロジェクトをスタートさせた。

「復興には新たな産業を作る必要がありました。」

「データに基づいて考える都市設計というのがこれからのキーワード。」

その全体像として、まず様々な IOT デバイスからのデータプラットフォームを確立し、行政・企業・教育機関と共有、会津若松市全体に広がる巨大なオープンイノベーションにつなげた。

例えば AI を活用した市民ポータルや、データサイエンティストの育成、最新技術を用いたヘルスケア、インバウンド施策、薬のドローン宅配、さらにアムステルダムとの連携など、産学官と市民が一体となったシチズンセントリックモデルが確立した。

7 年の取り組みの結果、福島に多くのひとや企業が戻り、町は息を吹き返した。

「結果としてデータを扱う先端 ICT 企業が集まりだし、ICT ビルが必要になりました。」

2019 年 4 月には新たな拠点を構え 250 人体制に。こうした取り組みは日本を代表するスマートシティのモデルとして国から表彰された。

そしてこのモデルは日本全国から注目され、サービス地域を拡大予定である。